北関東防衛局広報

防衛省
MINISTRY OF DEFENSE
防衛省北関東防衛局総務部報道官編集発行
さいたま市中央区新都心2-1
http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/

米軍、海・空自衛隊及び
北関東局との調整会議

５月28日横須賀を出港する
米空母キティホーク

硫黄島飛行場で着陸訓練をするFA－18

硫黄島で米空母艦載機の着陸訓練実施

平成10年に横須賀基地をいわゆる母港として、アジア太平洋地域の安全に貢献してきた米空母キティホークは、昭和36年の就役から47年を経た米国唯一の通常型空母ですが、５月28日、原子力空母ジョージ・ワシントンと交代するため、横須賀を離れ米本国への帰還の途につきました。

これに先立ち、５月19・20日、硫黄島飛行場で米空母キティホーク艦載機の夜間着陸訓練（ＮＬＰ）が行われました。

今回の訓練は、台風４号の影響も懸念されましたが、代替地とされていた厚木飛行場での訓練を実施することなく、予定を一日前倒し硫黄島で所要の訓練を終了しました。

北関東防衛局では、この訓練が円滑に実施されるよう第42回目となる今回も職員15人を派遣し、機材の使用や支援物資の輸送に係る米海軍、海上自衛隊及び航空自衛隊との間の調整や給食対応などを行いました。

国　民　保　護　っ　て

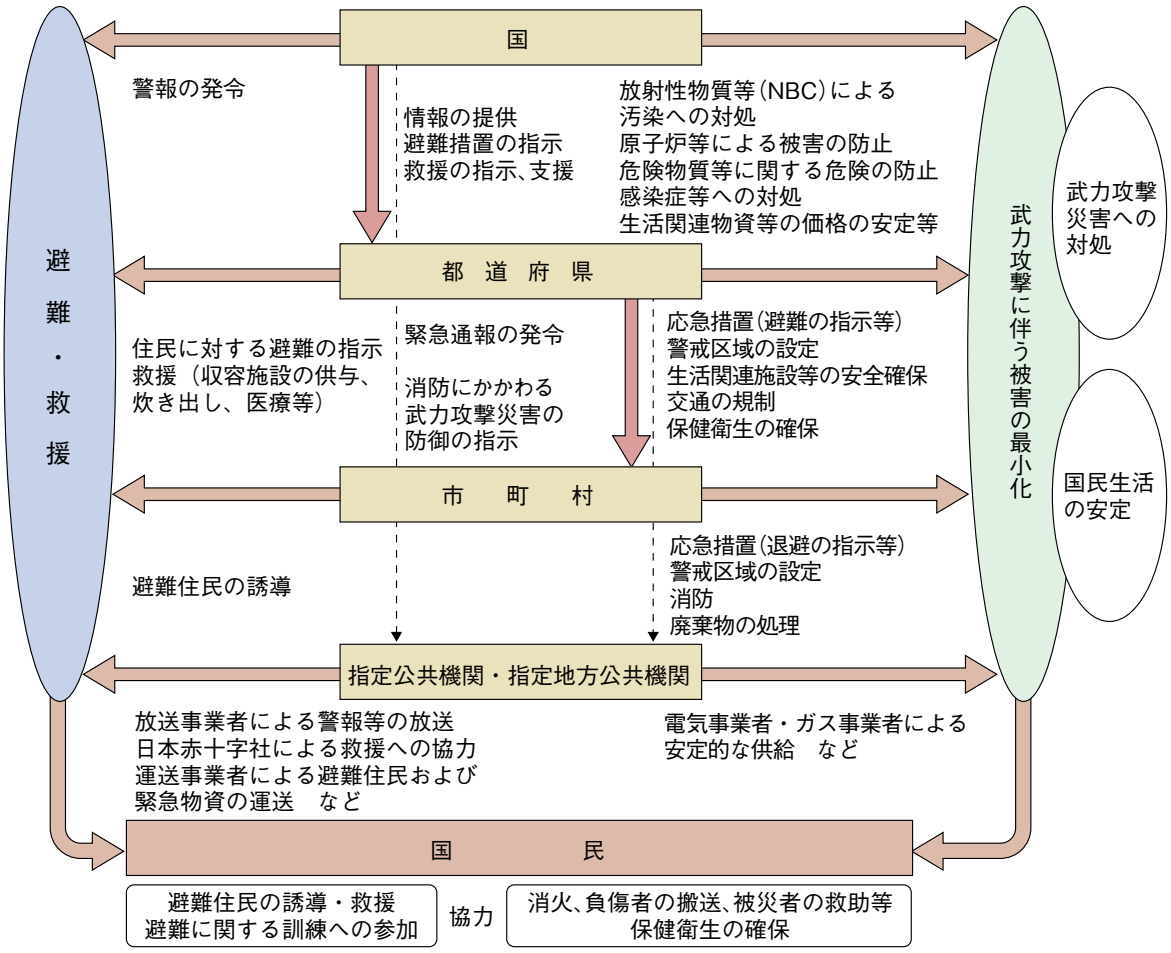
国民保護法

平成１６年９月、国民保護法が施行されました。

万一外国からの武力攻撃や大規模テロなどの事態が発生した際には、国と都道府県、市町村などが連携協力し、住民の避難や避難住民の救援などの国民保護措置を実施することとされています。

＊国民保護法：「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律」

武力攻撃事態等における国民の保護のための仕組



防衛省・自衛隊が行う国民保護措置

武力攻撃事態において、自衛隊はその排除を全力で実施しますが、これに支障のない範囲で、①住民の避難、②避難住民などの救援、③武力攻撃災害への対応（人命救助、被害の拡大防止、核・生物・化学攻撃等による危険物質の除去など）、④応急の復旧などに当たります。

な　ん　だ　ろ　う　？

外国からの武力攻撃などはあってはならないことですが、「万一の備え」はなくてはならないものです。

「万一」に備え、各都道府県などでは、国民保護訓練を実施しています。

自衛隊及び北関東防衛局も、各都道府県など地方公共団体が実施する国民保護訓練への参加を積極的に進めており、今後も、このような取り組みを続けることにより、地方公共団体等との連携強化に努めていきます。

対策本部の設置

負傷者の救出・処置

救助者等の除染
駅構内除染

平成19年11月に茨城県及び千葉県で行われた国民保護共同訓練の模様

施設補償課の業務紹介

施設補償課では、自衛隊や在日米軍が行う海上での訓練など、一定の区域について期間を定めて漁船の操業を制限し、あるいは禁止をした際、漁業を営んでいた方に損失が生じた場合の漁業補償をしています。また、自衛隊や在日米軍による航空機の離着陸などで、農業、漁業などを営んでいた方に損失が生じた場合の施設周辺の補償の業務を担当しています。

漁 業 補 償

実機雷処分訓練
（硫黄島掃海訓練海面）

エアクッション艇の
陸上での走行訓練
（硫黄島エアクッション
艇訓練海面）

◎自衛隊が使用する水域：硫黄島掃海訓練海面
硫黄島エアクッション艇訓練海面
東京都新島南方海面誘導飛しょう体試射水域
六ヶ所対空射場水域
◎在日米軍が使用する水域：硫黄島通信所水域
チャーリー水域

施設周辺の補償

補償対象区域の農地
（百里飛行場）

補償対象区域の農地
（百里飛行場）

◎自衛隊の飛行場　：入間飛行場
百里飛行場
◎在日米軍の飛行場：横田飛行場

防　衛　閑　話

ゴールデンウイークにイギリスの有名サッカークラブの試合をイギリスのマンチェスターまで観戦に行くほどのサッカー狂なのですが、最近、スポーツライターの杉山茂樹氏が書かれた「4－2－3－1」という本を読んでとても面白いと感じました。サッカーのフォーメーションに関する著作なのですが、サッカーファンならずともこの本から学ぶ点は多いと思います。

曰く「欧州人の根底に流れているのは、選手が圧倒的な個人技を備えているブラジルを倒すことにある。個人技の南米、組織の欧州とは大昔から言い続けられている言葉だが、欧州のサッカーの特徴は戦術だろう。個人技に対し、戦術を拠り所に立ち向かおうとする姿勢は、いわば弱者の論理だ。個人技ではブラジルに勝つ見込みはないという割り切りを欧州人は根底に潜ませている。賢い発想と言わざるを得ない」。要すれば、杉山氏は「戦術」は「弱者の工夫」であると述べている。なんとかして弱者が強者を倒そうと「工夫する」ところに「戦術」が生まれるということです。

それにしてもこの世の中には「絶対的な強者」というものは存在しないように思います。「強さ」というのは所詮、「相対的」なものであって、どんな強者や名選手にも弱点があり、その弱点をどのように突くのかが戦術のポイントです。杉山氏の本の中に、ブラジルの名選手であるロナウジーニョに対する方法が示唆されています。極めて凡庸な監督が考えそうな常識的な対応方法は、彼を抑えるために彼をマークする守備の人間を増やすことでしょうが、優れた監督はむしろロナウジーニョに対峙することになる選手に攻め上がりを得意とする者をぶつける方法を選択するようです。攻撃を得意とする選手の土俵で戦うのではなく、相手が不得意とする守備に追い込むことによって弱点を突く、こうしたことこそ弱者による戦術の工夫なのでしょう。